

場の名前	きらり姫宮 ほか		
運営団体	認定 NPO 法人きらりびとみやしろ		
住所	埼玉県南埼玉郡宮代町川端 3-8-25		
電話	0480-33-3868	E-mail	
代表者名	島村孝一	活動を始めた時期	1998 年
HP	https://kirari.or.jp/		
活動内容			
<p>「困ったときはお互いさま」をモットーにお互いに助け合い、住みよい町を目指して活動。1998 年に会員の相互扶助を目的とした任意団体として、宮代町で“助け合い活動”を開始。2005 年には小規模多機能ホーム「きらり姫宮」がオープン。デイサービスやグループホームなどの介護事業を開始する。その後は移送サービスや一時保育などの地域福祉サービスの提供、さらに宮代町福祉交流センター「陽だまりサロン」や「宮代町ファミリーサポートセンター」の運営など幅広く宮代町で地域福祉の推進する活動を行っている。</p>			
参加者層	<p>グループホームは施設と同地域に住居する人しか参加できないが、そのほかのサービス利用者も大半は地元からの参加が多い。一部、杉戸町や春日部市など、近隣市町村からの参加者もいる。</p> <p>グループホームや子育て支援（一時保育）、サロン運営など多くの事業を行っているために、参加者は幅広い年齢層にまたがる。</p>		
活動日	<p>助け合い活動や移送サービスの受付などは月曜から金曜まで。グループホームや一時保育の運営は年中無休。他にも講習やサロン活動など多数開催している。</p>		
スタッフの働き方			
<p>スタッフは地元の人が多く、事業ごとに責任者と常勤スタッフを置いている。サロン事業などは理事がボランティアで関わっているものもある。設立から 22 年が経ち、理事会のメンバーも少しずつ入れ替わって、概して高齢化は進んでいる。</p> <p>ボランティアも常に募集しており、「ふれあい社会づくり懇談会」などのイベントを地域で企画して、団体のことを知ってもらい、ボランティアになってもらうケースもある。</p>			
はじめたきっかけは？			
<p>認定 NPO 法人きらりびとみやしろの活動は宮代町の福祉課の課長だった井上恵美さんによって 1998 年に“助け合い活動”から始まった。</p> <p>当時、介護保険制度はなく、依頼に対しては行政からヘルパーを派遣する措置制度。当然ながら、介護対象である母親の夕食は作ることはできるが、息子の夕食を作ることはできない決まりになっていたり、時間になったら必ず帰らなくてはいけなかったり、柔軟な対応ができない状態だった。そのような行政の福祉には限界があると考え、会員相互の助け合いを行う任意団体「ハートフルみやしろ」を立ち上げた。</p> <p>「ハートフルみやしろ」は会員同士の相互助け合いのマッチングを行う団体で、例えば家事援助のサービスは、チケット制で 1 時間 800 円の有償ボランティアとして行われていた。井上さんは公務員として働きながら「今後の社会に必要なことだから」とボランティアで団体の運営を行っていた。井上さんだけでなく現理事長の島村さんも当時は総務課長として町役場にいた。町長からも社会に必要なことと応援された。</p> <p>その後介護保険制度が始まり、家事援助などは 1 割負担で利用できるようになったことから、会員が減り始め、スタッフやヘルパーも、待遇の良い介護事業者に流れて行った。そこで団</p>			

体でも介護保険事業を行うことにした。井上さんは役所を辞め、島村さんの父親が所有の土地に建てた「きらり姫宮」を使用し、介護事業者としてデイサービスやグループホームなどの事業を始めた。

どんな特徴があるのか？

地域密着型の NPO として、大手介護事業者とは違い、できるだけ利用者の生活に合わせた介護を行っている。グループホームでも調理を利用者に手伝ってもらい、家にいるのと同じような状況を作って、できるだけ長くいられるようにと心掛けている。そのような非効率的な運営が続いており、さらにグループホームは公的な助成がほとんどないので、経営的には厳しいが、グループホームやデイサービスだけでなく、設立当初から地域で続けている“助け合い活動”などさまざまな福祉活動を行っているので「きらりびとさんをお願いしたい」と入居してくれる人もいる。

施設の中には一時保育や子育てサポートなども入っていることから多世代での触れ合いもでき、子どもと触れ合う機会があることで高齢者もより元気になることができる。

施設の活動以外でも小学校の空き教室を使つての「陽だまりサロン」や空き家を使つた「園上さんちのサロン」などの場も運営しており、歌声、麻雀、そば打ちなどを行っている。

どんな人が集まっているか？

施設・サロンのどちらも利用者も女性が多く、さまざまな居場所が女性を中心に回っている。そんな中で囲碁や麻雀は男性も参加しやすく、健康麻雀の指導などで参加してくれる男性も多い。さらにデイサービスで行っている利用者のお散歩に同行する「お散歩ボランティア」には男性もおり、芝刈りなどにも参加している。多くの男性が地域に一步踏み出す機会が必要だと考えているので、踏み出すためのきっかけをいくつも用意している。

運営のコツ（ヒト・モノ・カネ）

地域の助け合いを行う NPO ならではのさまざまな工夫をしながら活動を行っている。

資金は事業収入だけでなく、寄付金集めも積極的に行っている。現在は認定をとり、法人に寄付をすると税金の一部が控除になる仕組みを取り入れている。そしてサロン運営やイベントなどに多くの人に参加してもらい、活動を知ってもらい会員になってもらう機会を増やしている。

場所に関しては、施設の中だけではなく、地域で空き家を借りてサロン運営するなどの活動を行っている。そうすることでより地域に行き届いた福祉が可能になる。しかし、実際には空き家の運営は鍵の問題などで難しい点も多く、地域の集会所などのほうが使いやすい。現在は自分たちが運営しているが、今後は自治会など、地域とより深くつながっている組織がそのような場の運営を担うべきであると考えている。

人に関しては、「できるひとが、できるときに、できることをやりましょう」をモットーに、自分の生活を優先しながら活動をしてもらうようにしている。「今日はゴルフに行くからできない」でも構わない。小さな地域でやっているなので、お互いの顔が見えている関係でもあり、お願いばかりをしてはどちらも重荷に感じてしまう。自分のペースでより長く参加してほしいと考えている。重要なのは「きょういく」（今日行くところがある）と「きょうよう」（今日用事がある）ということ。用事がある、行くところがあるということを大切に、認知症予防に努めている。